

## IV. 歴史的風致の維持及び向上に関する方針

### 1. 歴史的風致の維持及び向上に関する課題

#### (1) 「歴史上価値の高い建造物等の保存・活用」に関する課題

本市では、これまでも文化財の指定や登録等を行うことで歴史上価値の高い建造物の保存に努めてきた。未指定ながらも高い価値を有する古墳や町家、全市に分布する寺社などの歴史的建造物、近代以降の海浜行楽文化を象徴する公園や建造物等が数多く残されているものの、時代の移り変わりとともに、その保存・活用に課題が生じ始めている。

古墳については、墳丘の損傷などにより本来の形状を確認できないもの、あるいは民間開発により消滅する恐れがあるものなどがある。さらに、その近隣にあり、百舌鳥における伝統文化の継承を担ってきた歴史的建造物についても老朽化が進みつつあり、その保存が大きな課題となっている。

また、江戸時代からの伝統産業の工房や店舗が多く立地する環濠都市内では、戦時中の建物疎開や、昭和20年(1945)の堺大空襲を経て、なおも残る「元和の町割」や「伝統産業を育み続けてきた町家」、寺社などの歴史を感じさせる建造物がある。しかしながら、町家等は老朽化が進み、その維持管理や補修費用が大きな負担となるなどにより、現代風の建物への建替えや増改築、取り壊しなどが進みつつある。



古墳周濠でのアオコの発生



樹木による古墳への眺望阻害

#### (2) 「歴史的建造物の周辺市街地の環境」に関する課題

古墳については、その周囲の市街化の進行や濠におけるアオコの発生などにより、古墳が生み出す豊かな情景が阻害されつつある。さらに、仁徳天皇陵古墳等に隣接して位置する大仙公園に代表されるように、古墳及び周囲には古墳と一体となった緑地があるものの、周辺の建物や園内の樹木が古墳への眺望を一部で阻害する例がみられる。このように、全国有数の規模を誇る巨大な古墳ならびに古墳群を一望することが出来ない現状となっており、周遊に対する取り組みが不足している。

また、歴史的建造物等の周辺市街地では、かつては多くの人々が活発に活動し、周囲のまちなみとあいまって特有の歴史的風致を形成していた。しかし、歴史的風致を育んできた環濠都市内の環境は、町家等に代表される歴史的建造物の減少に伴い、少しずつその様相を変化させている。神輿渡御祭の際には多くの人々で賑わう紀州街道の沿道などは、都市基盤の整備、空地や駐車場の増加、建替わりなどにより歴史的な景観は失われつつあり、紀州街道の中心を走る阪堺線停留場の老朽化の進行や沿道の植栽帯が充実していない面も街道周辺の風情が消失しつつある要因のひとつとなっている。



空地化が進行する紀州街道沿道  
(環濠都市北部)

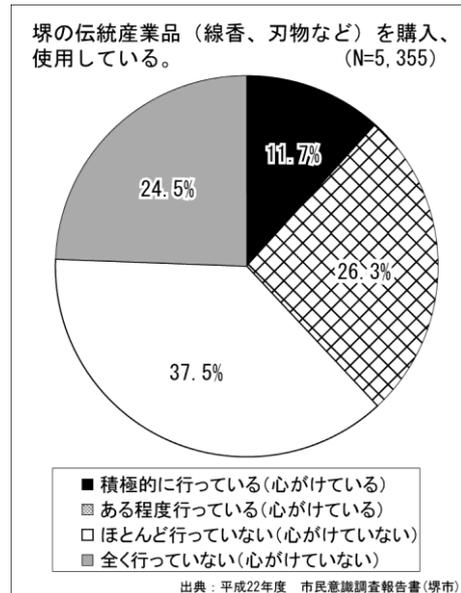


老朽化が進行する阪堺線の停留場

### (3) 「伝統を反映した人々の活動」に関する課題

堺の人々は「もののはじまり何でも堺」の言葉に示されるとおり、新しいものを取り入れる気風や柔軟さを持ち合わせ「世界に誇る匠の技」を高めてきた。しかし、国内外の他の産地との厳しい価格競争や、多様化する消費者ニーズへの対応の遅れ、また、職人の高齢化などにより、伝統産業の多くは経済的に厳しい状況下に置かれている。平成 22 年(2010)度市民意識調査において、「伝統産業品を積極的に購入・使用している」と回答した市民は約 1 割にとどまった。生活スタイルや産業構造の変化を背景に、地域に根付いていた伝統産業への関心が薄れつつあり、その継承・継続にも影響を及ぼしていると考えられる。

また、本市に古くから伝わる伝統文化、伝統的な祭礼行事についても、近年の社会・経済情勢を受け、課題が生じている。茶の湯については、イベントなどの催しを通じて多くの人々が親しんでいるが、茶の湯を学ぶ機会は限られている。また、千利休のことは知っていても、中世の堺の茶人が「茶の湯」を通して日本文化に与えた影響や業績を知る人は少なく、堺で生まれた「茶の湯文化」が持つ本当の深みが市民さらには訪れる人々に伝えきれていない現状にある。また、祭礼行事については、伝統の重み、信仰心、地域の誇り・協力体制により受け継がれているが、近世から続く集落住民と近接する新興住宅地の住民との間でのコミュニティの形成が十分に行われていない面も一部でみられ、伝統行事や祭礼の歴史的意義・大切さに対する認識の希薄化による次世代の担い手不足に課題を抱えている。



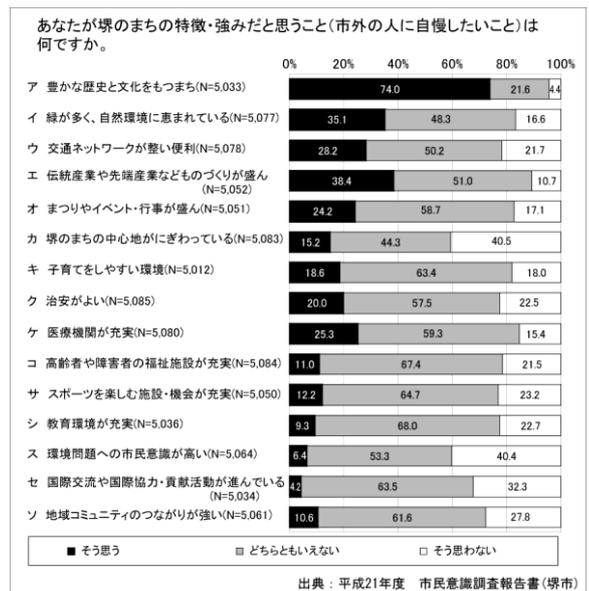
「堺の伝統産業品（線香、刃物など）を購入、使用している」

### (4) 「歴史・文化に対する市民意識」に関する課題

本市は、様々な文化を発祥し、国内外から人が集まり交流する「自由・自治都市」として繁栄した輝かしい歴史を有する都市であり、「未来へ飛躍する自由・自治都市～安らぎ・楽しみ・活躍する場として「希まれるまち」へ～」をスローガンに、歴史と文化、自由と自治の精神を礎に、未来へ挑戦し続け、飛躍していく都市をめざしている。

こうした目標に向けた取組みのなか、平成 21 年(2009)7 月に市民 10,000 人を対象に実施した「平成 21 年度市民意識調査」の結果では、「堺のまちの強み」として、回答者の約 7 割が「豊かな歴史と文化をもつまち」と回答しており、市民にとっても歴史と文化が本市の大きな強みと捉えられていることがわかる。

その一方で、「堺の豊かな歴史資源や文化資源を身近に感じるができる」という回答は「そう思う」と「ある程



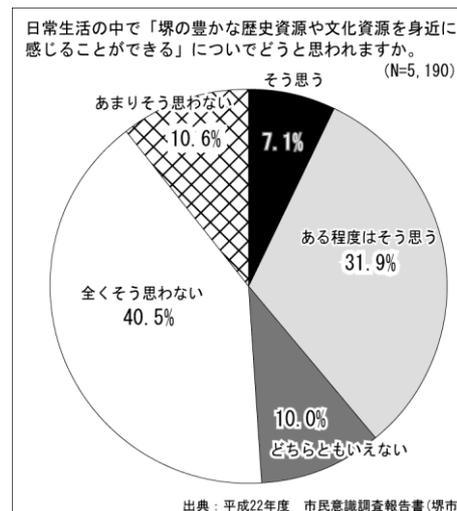
「あなたが堺のまちの特徴・強みだと思うこと(市外の人に自慢したいこと)」(複数回答)

度そう思う」を合わせて全体の4割弱にとどまり、このことから市民は「歴史と文化をもつまち」という意識を持っている一方で、それらが身近なものとして十分に市民へ浸透していない現状が浮き彫りとなっている。

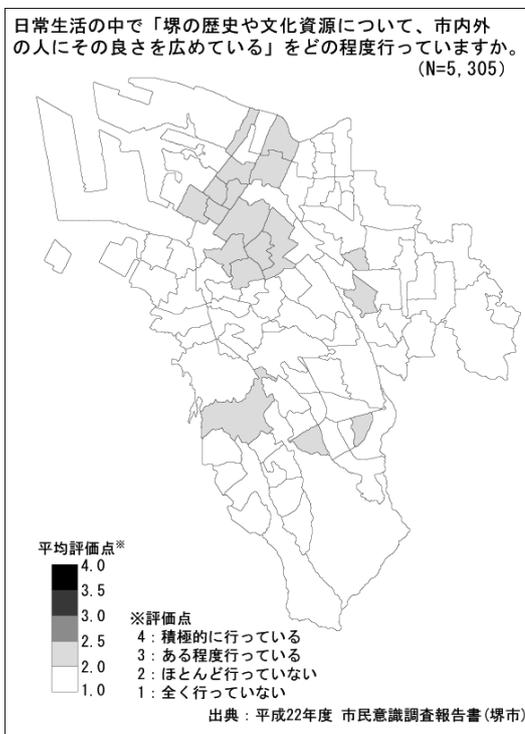
また、同調査の伝統産業に関する設問において、堺の歴史・文化資源に関し、日常生活の中で「市内外の人にその良さを広めている」という市民は、百舌鳥古墳群周辺及び環濠都市など一部の地域で見られるものの、その他の地域ではほとんど行っていない状況にあり、全体的に非常に少ない結果となっている。

以上のことから、多くの市民が本市の歴史・文化資源に触れつつも身近なものに感じていない面があり、その「素晴らしさ」に対する理解と愛着を市民全体、さらには市外の人々も含めて共有できていないことがうかがえる。

百舌鳥古墳群の周囲一体において、江戸時代から古墳を巡る周遊が行われてきたことに代表されるように、昔から数多くの人々が本市の名所や旧跡を訪れているが、今般、百舌鳥古墳群をはじめとする歴史資源や茶の湯をはじめとする伝統文化など、堺固有の歴史的資源について、その素晴らしさを市内外に十分に発信できていないこと、これらの歴史的資源を巡る周遊ルートや案内表示などのインフラ整備が不十分であること、多くの来訪者が本市の歴史的資源を体感し、理解を深めるための「おもてなしの準備」が不足していることなどが課題として挙げられる。



「日常生活の中で「堺の豊かな歴史資源や文化資源を身近に感じることができる。」



「堺の歴史や文化資源について、市内外の人にその良さを広めている」

## 2. 堺市マスタープラン及び分野別計画における歴史的風致の維持向上に関するまちづくりの位置付け

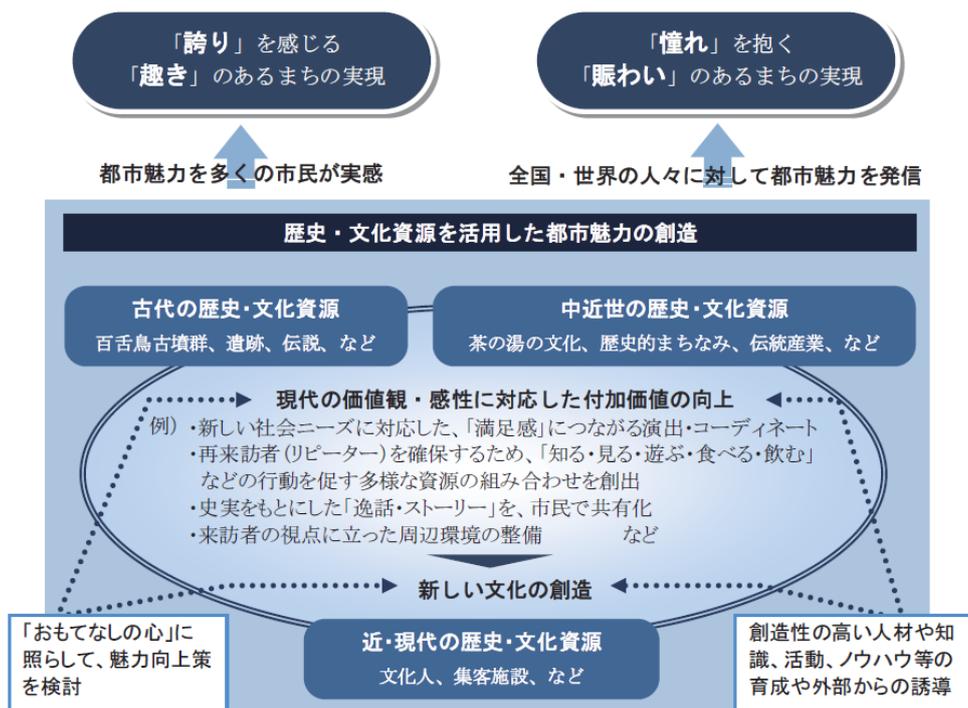
### (1) 堺市マスタープラン『さかい未来・夢コンパス』

本市では、堺市総合計画『堺 21 世紀・未来デザイン』の基本構想のもと、平成 23 年(2011)度から平成 32 年(2020)度の 10 年間のまちづくりの基本的な方向性と取組みを示す堺市マスタープラン『さかい未来・夢コンパス』を平成 23 年(2011)3 月に策定し、輝かしい歴史を有する都市として、先人から受け継いだ歴史と文化、自由と自治の精神を礎として、未来へ向けて挑戦し続け、飛躍していく都市をめざし、まちづくりを推進している。

同プランにおいては、将来像実現に向けた重点プロジェクト「堺・3つの挑戦」のひとつに、「歴史文化のまち堺・魅力創造への挑戦!」を掲げ、市民が「誇り」を感じる「趣き」があり、全国・世界の人々が「憧れ」を抱く「賑わい」のあるまちの実現をめざしている。

#### 新しいまちの姿 (イメージ)

- ・ 古来から引き継いできた豊かな歴史・文化資源について、すべての市民が貴重なまちの資産としての認識を共有し、その価値を守り、より高めて次世代へ受け継いでいく。
- ・ 市民の誰もが堺のまちを愛し、全国・世界の人々に堺の良さを自慢している。
- ・ 多くの人々が、堺から発信される魅力に惹かれて、まちを訪れる。
- ・ 来訪者は「おもてなしの心」で迎えられ、堺のまちで体験することすべてに満足し、「再びこのまちを訪れたい」と願うようになる。
- ・ そして堺にはより多くの人々が集まり、創造的な活動が一層活発になり、新しい文化が創造され、世界に発信される。
- ・ 堺は、歴史文化を礎に内外に都市魅力を発信し、市民が「誇り」を感じる「趣き」のあるまちに、そして全国・世界の人々が「憧れ」を抱く「賑わい」のあるまちになっている。



プロジェクト推進イメージ図

## (2) 『堺市都市計画マスタープラン』

将来像の実現に向けた都市計画の基本的な方針である『堺市都市計画マスタープラン』では、平成32年(2020)度を目標に都市づくりの基本姿勢として、「歴史・文化を活かし、持続可能な、自治都市を支える協働の都市づくり」を掲げている。その中で、「～輝かしい歴史・豊かな文化を活かし、世界に誇れるまちの活力や魅力を生みだす～ 地域の誇りとして歴史・文化資源を守り、活用することによって、国内外の多くの人々にとって訪れたい、また住民にとって暮らし続けたいという地域ひいては都市の魅力へと高めていくことが重要であり、世界文化遺産登録をめざしている百舌鳥古墳群をはじめとした歴史・文化資源の有する価値を市民一人ひとりが再認識し、それぞれの魅力や歴史がもっと身近に感じられる都市づくりを進める」としている。



都市づくりの目標設定の流れ

## (3) 『堺 都心のまちづくりプラン』

『堺 都心のまちづくりプラン』では、都心地域における都市機能のさらなる集積や、堺らしい魅力ある都市空間の形成を図り、快適に暮らせる都心のライフスタイル創出や市民が愛着を感じられるまちづくりを推進するとともに、豊富な歴史・文化資源を活かした新たな都市魅力の創出により、定住人口及び交流人口の増加をめざすとしている。

## 【まちづくりの目標】

『人が集い、交流し、賑わいと活力のあふれる都心』

— 歴史・文化が香る自由・自治の進取の気風が息づくまちをめざして —

かつて日本を代表する自治都市であった堺では、その自治の精神と進取の気風が今も受け継がれ、豊かな文化や伝統がまちの魅力となっています。本市の発展に中心的役割を担う都心のまちづくりにおいては、環境共生や公民協働などの観点を踏まえ、これまで培ってきた堺固有の歴史・文化を活かしてまちの個性を發揮しながら、人が集い、暮らし、交流することで賑わいや活力の創出につなげます。これによって、堺の新しい都市魅力を創造し、市民がまちに誇りと愛着を感じ、来訪者が堺らしさを楽しめるような都心のまちづくりをめざします。

## 【まちづくりの基本方針】

### 1. 自由と自治のまち・堺を代表する活力あふれるまちづくり

歴史文化都市・堺を代表するまちの顔づくりと、都市魅力を向上する文化・交流機能、商業機能や行政機能などの都市機能の充実、交通ネットワークの強化などにより、さまざまな目的をもった人々が集まる活力あふれるまちをめざします。

### 2. 文化の香り豊かな都心のライフスタイルを創出するまちづくり

日常的な利便性の向上など、誰もが快適に暮らせる生活機能の充実と、歴史を感じさせる水辺空間を活かした潤いのあるまちなみや、居心地のよいまちなか空間の形成など、豊かな都心のライフスタイルの創出と市民が愛着を感じられるまちをめざします。

### 3. 歴史を守り育み新たな魅力を創造するまちづくり

百舌鳥古墳群をはじめとする長い歴史の蓄積を今に伝える豊かな歴史・文化資源をまちづくりに活かし、堺ならではの新たな都市魅力を創出することにより、訪れたいまち、市民が誇りをもてるまちをめざします。

## (4) 『堺市景観計画』

平成 23 年(2011)に策定された『堺市景観計画』では、古くから積み上げられてきた歴史の重層性と、多彩な市街地や自然がおりなす都市の特性を、未来に引き継ぐまちづくりの源泉として、良好な景観の形成を図ることをめざし、市民、事業者、行政のそれぞれが、共通の認識をもってこれに取り組むため、計画の景観形成の理念と、基本方針を設定している。さらに、「全市レベル」「地域・地区レベル」「コミュニティレベル」の3つの取組みレベルを設定し、各レベルにおける課題・目標に対応した効果的な手法の導入と、これらを実現するための仕組みづくりを推進する。特に「地域・地区レベル」の取組みでは、①堺文化を特徴づけるすぐれた景観を有する地域、②堺の顔となる場所、多くの人の目に触れる場所で、施策上の効果が高い地域、③まちづくりの進展などにより今後景観形成を進める必要がある地域、④その他、良好な景観を形成する上で特に重点的に景観形成を図る必要が認められる地域としての観点から、百舌鳥古墳群周辺地域及び堺環濠都市地域を「重点的に景観形成を図る地域」として指定している。

<理念>

—共に守り、育み、創造する景観文化—

古代から未来へ 輝くまち・堺

<基本方針>

○ “堺で暮らす” 魅力を高める

身近な地域で、市民が愛着をもてるような、落ち着きのある調和の取れた景観の形成と、それに伴う暮らしの質の向上をめざします。

家の前の植栽、建物や看板のひとつひとつが、まちの景観を構成する大きな要素になります。まちなかの緑や河川、ため池といった水辺など地域の身近な自然を活かすとともに、歴史・文化と調和したたたずまいを生み出すことで、潤いある豊かな生活環境を育むことをめざします。

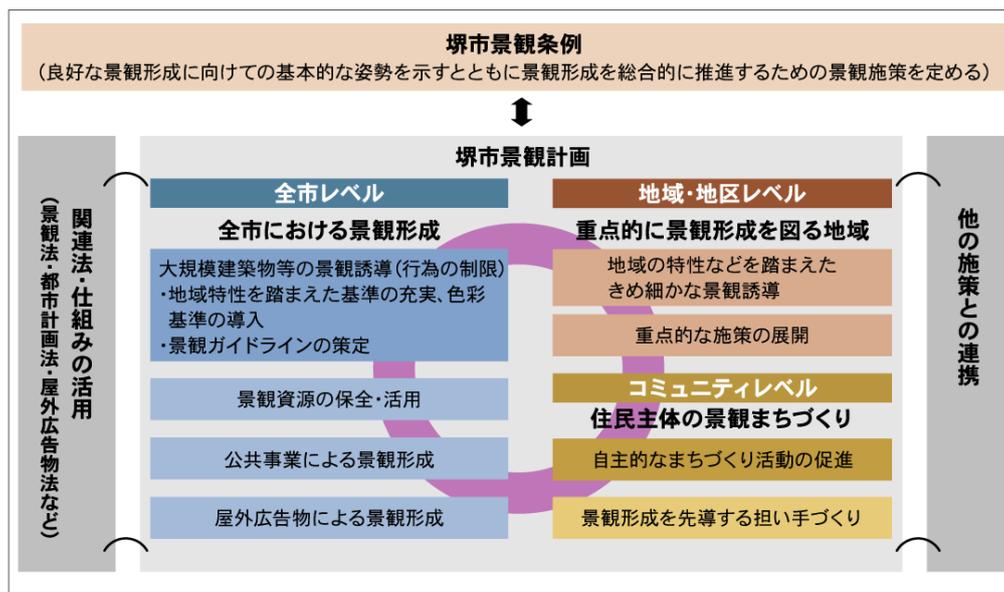
○ “堺文化” の個性を守り育む

南部丘陵などの自然環境や、仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群、環濠都市、堺旧港、街道などの歴史的なまちなみ、大美野や浜寺などの緑豊かな住宅地など、堺独自の歴史・文化資源を、市民の共有財産として再認識し、本市の、そして地域のブランド、文化的シンボルとして保全・継承します。同時に、それらと調和し、またその要素を取り入れて、まちなみをつくりあげていくことで、個性を一層育んでいきます。

○ 活力ある “まちの顔” をつくる

風格ある堺らしい都市の魅力を高めるために、固有の資源を活かし、調和した魅力ある景観形成により、創造性あるまちの顔づくりをめざします。

都心における “都市イメージを代表する顔” づくりや、各地域の特性を活かした “愛着と誇りがもてるまちの顔” づくりにより、まちの活力を創出していきます。



#### (5) 『堺市文化芸術推進プラン』【改訂中】

平成 20 年(2008)策定の堺市文化芸術推進プランでは、市民の文化力を強化し、文化を軸としたまちづくりを具体的に推進するため、施策を進める上での目標となるまちの姿を「堺の歴史と文化を活かした 都市の魅力と新しい顔づくり」としている。その実現に向けて、3 つの基本的な方針を設定し、基本的な方針のもと、重点施策を位置付けており、その中で、歴史文化を活用した「新しい堺」の発信機能の強化を推進することとしている。

##### <基本的な方針>

- 「選択と集中」により重点施策とプロジェクトを選定・実行する。
- 文化的中枢エリアの形成と地域文化の発展により都市の魅力を強化する。
- 多様な主体による新しい仕組みのもとで重点施策等を推進する。

##### <施策>

- 歴史文化を活用した「新しい堺」の発信機能の強化

##### [施策目標]

- ・堺には、長い歴史の中で蓄積・継承されてきた世界に誇るべき歴史・文化資源、先人達の足跡や功績などが重層的に存在している。これらの保存に努めるとともに、活用した事業を推進することで、貴重な文化資源等に対する市民理解を育み、次代への継承に努める。そして、市民の郷土への愛着と誇りの醸成や、文化的なアイデンティティの形成、さらには新しい文化芸術の創造へとつなげる。
- ・固有の歴史・文化を活用し、個性豊かな魅力あふれる都市イメージを国内外に向け発信することで、多くの人々が集い、交流し、にぎわうなどまちの活性化に寄与する。

#### (6) 『堺市文化観光再生戦略プラン』【改訂中】

平成 18 年(2006)策定の『堺市文化観光再生戦略プラン』では、観光施策構築に向けた検討の中で、施策の推進にあたっての基本コンセプトを設定し、総合的な施策展開による都市集客力強化・オンリーワンの街づくりの推進を掲げている。

##### <基本コンセプト>

- 中心テーマ：「堺の歴史文化」
- 時代の選択：知名度の高い古墳、現代の観光関連産業・文化体験につながる中世なんばん
- 総合的な施策展開による都市集客力強化・オンリーワンの街づくりの推進

基本コンセプトのもと、戦略的な施策展開において、堺の歴史文化を象徴する二大戦略拠点の整備やハード・ソフトにわたる観光インフラの整備を掲げている。

##### ○堺の歴史文化を象徴する二大戦略拠点の整備

～古代、中世なんばん文化をはじめとする堺固有の歴史文化の具現化～

##### (1) 百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録と連動した大仙公園及び周辺整備

世界文化遺産登録を目指して取組みが進められている仁徳陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群は、現状においても、堺市においては最も高い認知度を有する資源であり、また、隣接する

大仙公園及びその周辺エリアには、博物館、茶室など、堺の歴史文化を象徴する様々な施設が集積しており、本エリアは、堺観光のシンボルエリアになりうるポテンシャルを有している。

このため、仁徳陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録を実現すること等により、本エリアを「堺観光シンボルエリア」として内外に強くアピールするとともに、各施設の魅力向上、市内各施設とのアクセス改善等をあわせて推進することにより、旧市街地の「文化観光拠点」と並ぶ、堺観光の戦略拠点としての整備を推進する。

## (2) 堺観光の玄関口となる“文化観光拠点”の整備と旧市街地・環濠エリアの魅力の再現

堺出身者の中で最も知名度の高い千利休や与謝野晶子にまつわる屋敷跡、生家跡などの重要な観光資源がある宿院は、由緒ある寺社や古いまちなみなどの歴史文化資産が集中する旧市街の中央に位置するだけでなく、アクセスの面でも、幹線道路に面しており、関西空港や大阪と接続する高速道路のインターチェンジや、宿泊施設が集中する南海電鉄堺駅、阪堺線宿院電停に近いことなどから、堺観光の表玄関として非常に重要な位置にある。

現在、この宿院の旧市立堺病院跡地で進められている「文化観光拠点」の整備は、堺の強みである歴史文化を活用し、弱みとなっている駐車場不足等の課題を解決するうえで、非常に重要な役割を担う、観光周遊の起点となる戦略拠点である。このため、早急に旧市立堺病院跡地に、堺観光の玄関口となる拠点施設の整備を進める。また、由緒ある寺社や古いまちなみなどの魅力を増すべく周辺整備をあわせて推進し、堺固有の歴史文化を体感できるようなまちづくりを推進する。

## ○ハード・ソフトにわたる観光インフラの整備

### (1) 基礎的インフラの早急な整備

既述の集客資源調査においては、駐車場、案内表示、観光案内所といった要素が、特に評価が厳しくなっている。これは、はじめて堺を来訪する観光客にとっては、必要不可欠な基礎的な要素であり、これらの整備・改善が進められない限り、多くの来訪者を集め、来訪者の高い評価を得ることは困難である。

このような観点から、上記拠点施設と整合を図りつつ、これらの基礎的な観光インフラの整備にまず注力する必要がある。

### (2) 観光客へのサービス水準の向上のためのソフトインフラの充実

堺には、刃物、茶の湯や線香作りなど、その歴史や伝統に関連する様々な体験メニューが用意されているものの、現状、必ずしも多くの来訪者を集めているとは言えない。食文化についても、同様である。

他方、旅行に関する嗜好は多様化しており、多くの来訪者が同一の景色や建築物を見て同一の食事や名物を楽しむ、画一大量生産型・名所見学型の観光だけでなく、異文化体験・交流という個別性の高い企画が、新しい観光のスタイルとして注目されつつある。そのような観点からも、堺は高いポテンシャルを有しているものと考えられることから、堺の歴史文化を快適に体感・体験できるような仕組みづくり＝観光商品の開発に官民共同で取組む。また、商品化の促進とともに、来訪者の“おもてなし”の充実を図る観点から、各現場での課題を逐一チェックし、順次改善を進めることで着実にサービス水準の向上を図り、観光を支えるソフトインフラとして、あわせて整備を推進する。

### 3. 歴史的風致の維持及び向上に関する方針

堺市マスタープランに示す重点プロジェクトである「歴史文化のまち堺・魅力創造」の実現に向け、関連する分野別計画との連携を図りながら、これまで守り、育まれてきた歴史的風致の維持及び向上に向け取り組んでいく。歴史的風致に関する現状と課題を踏まえ、以下のとおり歴史的風致の維持及び向上を図るための基本方針を設定する。

#### 歴史的風致の維持及び向上に関する基本方針

- (1) 古墳時代をはじめ各時代に培われてきた多様な歴史・文化資源の保存と活用
- (2) 「もののはじまり何でも堺」に象徴される伝統の継承と振興
- (3) 古墳や歴史的まちなみを活かした魅力ある景観の創出
- (4) 歴史の重層性により育まれた堺の都市魅力の発信と共有

#### (1) 古墳時代をはじめ各時代に培われてきた多様な歴史・文化資源の保存と活用

本市は古墳時代に築造された古墳から、近世以降の町家及び社寺建築、そして近代以降の海濱行楽地及びその周辺の建造物群など、各時代に起源を有する歴史・文化資源を中心とした歴史的風致が分布することが大きな特徴である。

これらの歴史的資源の中心を担う古墳や町家等の歴史的建造物は、時代の変化に伴い、その維持が難しくなりつつあるとともに、その周辺環境も変容してきている。また市民をはじめ、本市に係わる全ての人々の共有すべき固有の財産であることから、積極的に保存・活用に取り組む必要がある。そのうち、文化財保護法等による指定や登録制度により保存措置が講じられているものについては、持続的な維持管理を図りながら、その活用に努める。未指定の文化財についても、調査によりその価値を明らかにし、それらの建造物の情報を一元的に整理したうえで、文化財保護法に基づく保存等の措置や、その他施策による所有者及び管理者への様々な支援を検討する。なお、百舌鳥古墳群については、宮内庁管理外の古墳を対象として、史跡指定を検討し保存を担保する。指定後は、整備や修景を行い公開することで、古墳に対する理解向上を図る。

#### (2) 「もののはじまり何でも堺」に象徴される伝統の継承と振興

刃物や線香などの伝統産業や、こおどりややっさいほっさい等に代表される祭礼行事など、歴史的風致を形成する伝統を反映した人々の活動は、地域の自然的・社会的環境との関わりの中で成立し、継承されてきたものである。そのため、それらを振興・継承するためには、地域を拠点に生活または生業を営む活動の担い手が主体となり、振興・継承のための取組みを行うことが重要であるとともに、現代のライフスタイルに合わせた商品開発や新規市場の開拓による「伝統産業製品の需要の拡大」、伝統技能を継承し、業界の牽引役となる「次世代人材の育成」、本市伝統産業の認知度の向上に向けた「情報発信の強化」が求められる。

このようなことから、伝統産業の振興・継承にあたっては、消費者ニーズや市場環境の変化に対応した商品開発や販路開拓、情報発信の強化など、これらの複合的な展開を図る。

また地域の祭礼行事の保全・継承にあたっては、祭礼行事が住民のコミュニティをつないできた求

心力の源であることを十分に踏まえながらも、地域の要望に応じる形で、不足する祭礼行事の新たな担い手としての新規住民の参加、技術伝承のための記録作業などを進める。

### (3)古墳や歴史的まちなみを活かした魅力ある景観の創出

歴史的建造物等の周辺市街地においては、市街化の進展により、歴史・文化資源と調和したまちなみが徐々に失われつつある。そのため、建築物の高さや形態意匠について、堺市景観計画及び堺市景観条例による規制・誘導に加え、都市計画手法などを活用し、堺に暮らす人々及び堺を訪れる人々が歴史的風致を感じられるような魅力ある景観形成を進める。特に、古墳の周辺市街地においては、昔からの周遊によってその巨大なスケールを見物、体感できていたことを踏まえ、古墳周辺の環境整備とともに、これと調和し、また古墳への眺望に配慮した周辺市街地の景観の保全・創出を図る。さらに古墳の濠についても水質改善に向けた手法の検討等に取り組む。

町家が多く残る地域においては、核となる指定文化財等との調和、伝統行事や祭礼とあいまった歴史的風致の形成を図るため、建築物の修景、道路等のしつらえを工夫するなどにより、歴史的なまちなみを形成するとともに、これと調和した建て替えなどを促進する。さらに阪堺線が通る紀州街道沿道について停留場の美装化、紀州街道の沿道の景観づくりにより市街地環境の整備を図る。

### (4)歴史の重層性に育まれた堺の都市魅力の発信と共有

本市は、古代より海に開かれ、中世には環濠都市を形成し、近代以降も港湾都市として海を通じて広く世界へと繋がる流通往来の拠点として発展してきた。また陸路においても複数の街道の起点や結節点として古くから人・物・情報が集まるなど、国内外との交流の拠点としても発展してきた。このような背景もあり、市域全域にわたり各時代に新しい文化や歴史が重層的に生み出され育まれてきたことが本市における都市としての魅力のひとつであり、古くは全国あるいは世界に向けた情報・交流の中心的存在だったといえる。

また伝統行事や祭礼、近代の海濱行楽などの伝統文化、あるいは堺商人や匠の技により育まれてきた伝統産業には来訪者に対する「おもてなしの心」が込められている。その表現方法の体系といえる「茶の湯」文化の精神を尊重し、本市の大きな魅力のひとつとして「おもてなし」の意識を常に持ち続けることが歴史的風致の維持向上を目指す上でも非常に重要である。

これらを踏まえ、古くから受け継ぎ、洗練してきた歴史・文化資源を大切にし、さらに将来へと引き継ぐためには、市民が堺固有の歴史・文化を十分に理解し、共感し、さらに誇りを持つことが不可欠である。そのため、市民への情報発信、あるいは“堺で育まれてきた歴史・文化資源”に触れる機会の創出などに取り組み、市民の意識醸成を促進する。

また市内外を問わず多くの人々からの評価も、まちづくりや地域教育等との好循環を生み出すことに繋がる。そこで、本市が受け継いできた伝統産業や茶の湯体験等の地域固有の歴史・文化資源について、数多くの来訪者が堺の歴史や文化に触れ、感じ、共感してもらえるよう、現存する資源を有効活用し、回遊性の向上に向けた基盤整備等の環境整備を進める。それとともに、学び、体験する機会の充実を図り、情報・交流の中心的存在であった誇りを持ちながら、国内及び広く世界に歴史・文化資源に培われた堺の都市魅力を発信する。

#### 4. 計画実現のための推進体制

本計画の実現に向けては、歴史まちづくり法第11条第1項に基づく「堺市歴史的風致維持向上計画協議会」を「堺市歴史的風致維持向上協議会」に改編し、事業の進捗管理や連絡調整、計画変更に関する協議を行う。

